【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成30年3月22日(2018.3.22)

【公表番号】特表2017-505332(P2017-505332A)
【公表日】平成29年2月16日(2017.2.16)
【年通号数】公開・登録公報2017-007
【出願番号】特願2016-550742(P2016-550742)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　8/34　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　8/34
Ａ６１Ｑ　7/02

【手続補正書】
【提出日】平成30年2月5日(2018.2.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
４種のセスキテルペンアルコールを含み、毛髪再生を減少させる、４種から７種のテルペンアルコールの相乗的組合せ。
【請求項２】
請求項１に記載の相乗的組合せであって、前記４種のセスキテルペンアルコールが、セドレノール、セドロール、ネロリドールおよびビサボロールαであることを特徴とする相乗的組合せ。
【請求項３】
請求項１または２に記載の組合せであって、前記テルペンアルコールが、ゲラニオール、ビサボロール、シトロネロール、ネロール、テルピネオール、リナロール（linalol）、メントール、プレゴール、カルベオール、ピノカンフェオール、ミルセノール、イソプレゴール、ファルネソール、ランセオール、サンタロール、ベティベロール（vetiverol）、ビリジフロロール、バレリアノール、ツメロール（tumerol）、パチュロール、オッシドール、ヌートカトール、ジンコヘレモール、ハナミオール、グアヤコール（guaicol）、ゲルマクラジエノール、ホキエノール、オイデスモール、カジノール、またはこれらの分子の光学異性体もしくは立体異性体から選択されることを特徴とする組合せ。
【請求項４】
請求項１または２に記載の組合せであって、５％のセドレノール、２０％のセドロール、５０％のネロリドールおよび２５％のビサボロールαを含み、百分率が、前記組合せの重量に対する重量で表されることを特徴とする組合せ。
【請求項５】
請求項１から３のいずれか１項に記載の組合せであって、セドレノール、セドロール、ネロリドール、ビサボロールα、ゲラニオール、ネロールおよびシトロネロールを含むことを特徴とする組合せ。
【請求項６】
請求項５に記載の組合せであって、３．３％のセドレノール、１３．１％のセドロール、３２．８％のネロリドール、１６．４％のビサボロールα、１６．４％のゲラニオール

、１６．４％のネロールおよび１．６％のシトロネロールを含むことを特徴とする組合せ。

【請求項７】

請求項２に記載の組合せを含むことを特徴とする化粧用組成物であって、前記セスキテルペンアルコールが、以下の量：前記組成物の総重量に対して少なくとも０．５ｐｐｍのセドレノール、少なくとも２ｐｐｍのセドロール、少なくとも５ｐｐｍのネロリドールおよび少なくとも２．５ｐｐｍのビサボロールαで存在し、前記組成物が、特に匂いのある化合物、抗酸化剤および／または有機溶媒から選択される少なくとも１つの他の化合物を含むことを特徴とする化粧用組成物。

【請求項８】

請求項１から６のいずれか１項に記載の組合せまたは請求項７に記載の組成物を含む化粧用製剤であって、薬学的および皮膚科学的に許容しうる賦形剤をさらに含むことを特徴とする化粧用製剤。

【請求項９】

請求項８に記載の化粧用製剤であって、０．４ｐｐｍから１０％の間の、請求項１から６のいずれか１項に記載の組合せ、または０．１％から１０％の間の、請求項７に記載の組成物を含み、百分率が、製剤の総重量に対して表されることを特徴とする化粧用製剤。

【請求項１０】

請求項８または９に記載の化粧用製剤であって、ローション、ゲル、クリーム、ポマード、香油またはフォームの形態であることを特徴とする化粧用製剤。

【請求項１１】

請求項８から１０のいずれか１項に記載の化粧用製剤であって、化粧用製剤に、痩身、抗セルライト、ファーミング、保湿、アンチエイジング、抗微生物、抗酸化剤、ヒーリング、張筋、抗しわ、キレート化、錯体化および封鎖、鎮静、コンシーラー、抗発赤、皮膚軟化、毛髪のもつれ解き、ふけ、脱毛の各特性を付与して、細胞の再生に寄与する、炎症反応を調節する、または顔の長円形の維持に寄与する可能性があるだけでなく、日焼け保護、抗刺激、細胞栄養摂取、細胞呼吸、抗脂漏、抗再生または皮膚の色合いの各特性も付与する可能性がある、少なくとも１つの有効成分をさらに含むことを特徴とする化粧用製剤。

【請求項１２】

請求項１から６のいずれか１項に記載の相乗的組合せ、請求項７に記載の組成物、または請求項８から１１のいずれか１項に記載の化粧用製剤の化粧的使用であって、好ましくは除毛後に毛髪再生を減少させるためであることを特徴とする化粧的使用。

【請求項１３】

毛髪再生を減少させる方法であって、毛髪再生の減少が望まれる皮膚領域を選択すること、および請求項８から１１のいずれか１項に記載の化粧用製剤を、毛髪再生を減少させるのに十分な量で、前記領域に塗布することを含むことを特徴とする方法。

【請求項１４】

請求項１３に記載の方法であって、前記皮膚領域が、顔、脚、恥骨、胸、腕または腋窩に位置することを特徴とする方法。